

(別紙様式)

都道府県番号	40
都道府県名	福岡県

()

学校名及び規模(平成14年4月現在)

小郡市立 のぞみが丘小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	5	5	5	4	4	1	28	36
児童数	155	176	172	167	152	144	3	969	

実践研究の概要

・主題(テーマ)

基礎・基本を身につける学習活動の創造～個に応じた指導の工夫改善を通して～

・テーマ設定の趣旨

本校は、新興住宅地の中に新設された学校であるため、生活経験や学習体験は多様になり、地域や友達とのつながりも希薄であるという課題を抱えている。

このような子ども一人ひとりが、自分のよさや可能性を發揮しながら豊かに自己表出し、生きる力の根幹である「基礎・基本」を確実に身につけていくためには、学習進度、習熟度、興味・関心、生活経験などにおいて異なる子ども一人ひとりの多様な持ち味に応じた学習指導の工夫が必要であると考え。

そこで、全職員が組織体として、個に応じた学びの指導体制をつくっていくことが重要であると考え、本研究に取り組んだ。

実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

- ・各学年のフロンティア教科の重点教材を設定し、その教材がフロンティア授業公開、実践交流会、研究発表会、校内全体研究授業、校内ブロック研究授業で実践されるよう年間計画を立てた。
- ・各学年1名から構成される主題研修研究推進委員を中心に学年部会を活性化し、研究テーマや実践方法等についての連絡・調整がとりやすいようにした。
- ・校内の教科等部会とは別に、フロンティア教科部会(国語部・理科部)を設置し、授業実践を通して、教科における成果と課題を明らかにしていった。
- ・発展的・補足的な学習を進めている先進校の視察、文献資料、他のフロンティアスクールの実践に学ぶ機会を取り入れた。

() 実践研究の内容

指導体制の工夫

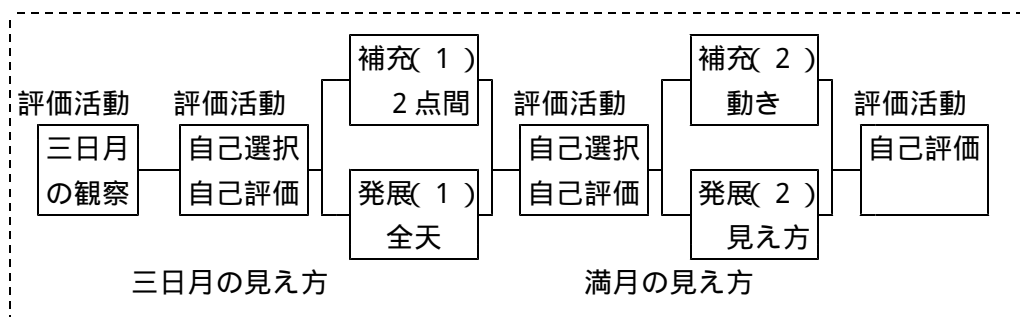
子どもの発達段階に即して、全校的な指導体制を組み実践した。その結果、高

学年では授業時数の約4割を担任外の教師が指導する体制が日常化した。

	学級担任制	主な学習指導体制	その他
5・6年	学級担任授業	学級担任専科授業 専任専科授業	少人数授業 T T授業
3・4年		交換授業 (年間交換・単元交換)	合同授業 リクエスト授業
1・2年		少人数授業, T T授業	

実践事例

【第4学年3組 理科 「月の動きをさぐる」 少人数授業 8時間計画】



子どもの理解や習熟の状況に応じた指導を行うために、まず、評価を生かす指導を工夫した。次の3回の評価活動を単元の流れの中に位置づけた。

- ・事前の児童理解を図る評価活動（月の観察の既有経験）
- ・学習中の習熟度をつかむ評価活動
(評価規準をもとにした 式 + その理由や感想を書く記述式)
- ・学習後に目標達成の状況を把握する評価活動（単元まとめのテスト）

次に、発展的・補足的な学習を取り入れた。(本単元では2回)

- ・もともになる学習 ... 月は日ごとに形を変え、たえず動いている
- ・発展的な学習 ... 全天, 新月・三日月・半月・満月, 月の満ち欠け
- ・補足的な学習 ... 2点間, 三日月・満月, 太陽の動き

そして、この2つの考えから単元構成を工夫し、それに伴う指導体制を工夫した。本単元は、担任と6年理科専任専科とのT T授業を実施し、発展的・補足的な学習を行う際には少人数授業を行った。発展的・補足的なコースの選択の際には、自己評価を行い、それぞれの学習内容や自己選択の仕方を説明した。

コース選択の留意点として、一人ひとりに応じたコースを選択できるように、これまでに自己評価や教師の観察、評価規準に基づいて適切に助言を行った。

この結果、子どもにとっては、どこまで力が付いているのか自分を見つめる力や、これができるようになりたいからこの活動をと意識して目標に向かって自分

で切り開いていく力を養うことにつながった。教師にとっては、子ども一人ひとりの実態に応じて確実に基礎・基本の定着を図るための授業改善につながった。

指導形態の工夫

発展的・補足的な学習を進めるにあたり、

- ・ 1つの学級を2つのコースに分け2人の教師で指導する少人数授業
- ・ 2つの学級を3つのコースに分け3人の教師で指導する少人数授業
- ・ 2つの学級を2つのコースに分け2人の教師で指導する合同授業
- ・ 担任1人で2つのコースを指導する学級担任授業

など、基礎・基本の定着を図るために、本年度はいろいろな指導方法と指導体制に取り組んでいるところである。

また、子どもの興味・関心に応じた指導を行うために、

- ・ 課題選択型の授業
- ・ 順序選択型の授業

にも取り組み、指導形態や、複数の指導者による指導体制を工夫している。日常の1人で指導する学級担任授業、交換授業、学級担任専科授業、専任専科授業等でも、より個に応じた指導ができるよう工夫を試みているところである。

() 成果と課題

成果

- ・ 教師の指導体制の工夫を図ったことで、学校全体で子どものよさや可能性を伸ばし、高めていくことができた。
- ・ 発展的・補足的な学習の工夫及び指導形態の工夫等の授業改善を図ったことで一人ひとりの子どもの学習状況に応じて、基礎・基本の定着が図られてきている。

課題

- ・ 評価システムの確立（評価方法、自己評価能力）
- ・ 発展的・補足的な学習のための教材開発
- ・ 子どもの発達段階に応じた指導体制の整備と確立

() 成果の普及方策

- ・ 10月15日 学力向上フロンティア授業公開（小郡市内小中学校を対象）
- ・ 10月22日 小郡市教育委員会研究指定委嘱 研究発表会
- ・ 11月22日 学力向上フロンティア実践交流会（北筑後管内小中学校を対象）
- ・ 学級・学年・学校だより等での保護者への啓発